

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年
1月2日
第76号

ヤツデ（ウコギ科）

ご存知の「天狗のうちわ」ですね。名前の由来は、葉の形が掌状に裂けていることから（八つ手、ただし実際には7枚か9枚に裂ける）。今、園内の自然植生区の散策路脇で花が見られます。日本原産、雌雄同株の常緑低木です。いたるところの日陰に自生し、魔除けになり縁起が良いとされ、庭木としてもよく植えられています。秋から冬へ雄性期～雌性期と花期が長く（今は雌性期の状態で、写真は12月初旬の雄性期のもの）、そのまま果実となり、春に熟します。鳥が種子を運び、発芽率がよいので、あちこちに芽を出します。

中国では葉および根皮を「八角金盤（ハッカクキンバン）」という名の生薬とし、止咳化痰、祛風湿を目的に使用されますが、日本の漢方医学では使用されず、葉を去痰を目的にした民間薬として、また、リウマチに対する浴剤として使用されていました。トリテルペンサポニン類を含み、大量に摂取したときの下痢、嘔吐の原因となっています。



カミヤツデ（ウコギ科）

温室の裏側、山崎川のフェンス際には、同じくウコギ科で、中国、台湾に分布する常緑低木、ヤツデよりも大型の葉をもつカミヤツデも花を咲かせています。こちらは外来植物で、ヤツデと同様に繁殖力が強いために、日本の生態系を乱すことが危惧されています。

中国では茎の髓を「通草」という名の生薬として祛湿薬として使用するほか、茎の髓をシート状にスライス（桂むき）して、造花や書画で使う通草紙を製造し、これが植物名の由来となっています（紙八手）。

ただし「通草」という名称は、アケビ科アケビの茎を基原とし、同じく祛湿薬として使用する生薬「木通」の別名でもあり、特に宋代以前の本草書での「通草」はアケビの茎と考えられています。両者の混同には注意が必要です。

今、こんな草木が楽しめます！！